

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察情報について

このことについて、発生予察注意報第4号（イチゴのうどんこ病）を発表しましたので、送付します。

病害虫発生予察 注意報第4号

- 1 農作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 うどんこ病
- 3 予報内容
  - (1) 発生地域 県本土
  - (2) 発生量 多
- 4 情報の根拠

- (1) 10月中旬の巡回調査で、発生ほ場率は35%（平年3%）と平年より高く、発生程度の高いほ場も認められた（表1、図1）。
- (2) 育苗ほでの発生が多かったため、今後潜在感染株が発病し、多発する恐れがある。
- (3) 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、発生しやすい条件になる。

表1 うどんこの病発生状況 調査日：10/14～20

地域名	調査ほ場数	発病程度別ほ場数（率）				計
		甚	多	中	少	
日置	5		1		3	4
川薩	5	1			1	2
曾於	7					0
計	17	1	1	0	4	6(35%)

5 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は上位葉に発生しやすいので、葉裏をよく観察し、早期発見と初期防除に努めること。
- (2) 発生を認めたら治療効果のある薬剤（表2）を約7日おきに散布し、防除を徹底すること。
- (3) 薬剤は、葉裏や下位葉に十分かかるよう散布する。その際は防除効果を高めるため、葉害の恐れのない農薬については展着剤を活用すること。
- (4) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすくなるので、適切な栽培管理を行うこと。
- (5) 発病葉や果実などは伝染源となるので、施設から持ち出し適切に処分すること。
- (6) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布に努めること。

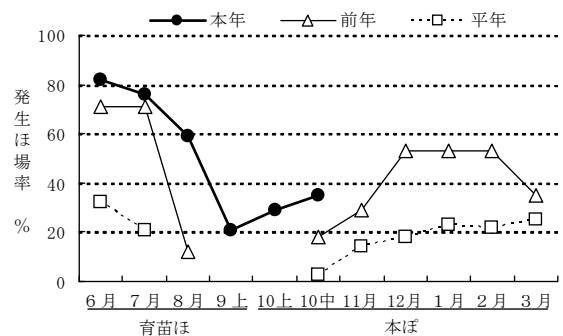


図1 うどんこ病の発生推移（イチゴ）

(参考)

表2 主なイチゴうどんこ病の防除薬剤

平成21年10月21現在

系統名	薬剤名	希釈倍数 (倍)	収穫前日数 ・使用時期	使用回数	予防	治療	備考
SBI	ラリー乳剤	5,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	
	トリフミン水和剤	3,000~5,000	収穫前日まで	5回以内	○	○	
	サブロール乳剤	2,000	収穫前日まで	5回以内	○	○	
	ルビゲン水和剤	4,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	
	スコア顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	
	サンリット水和剤	2,000~4,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	
SBI+その他	パンチョTF顆粒水和剤	2,000	収穫前日まで	2回以内	○	○	
ストロビルリン系	アミスター20フロアブル	1,500~2,000	収穫前日まで	本ぼ：3回以内	○	○	
	ストロビーフロアブル	3,000~5,000	収穫前日まで	3回以内	○	○	
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000~4,000	収穫前日まで	2回以内	○	○	
グアニジン系	ベルコートフロアブル	2,000~4,000	収穫前日まで(生育期)	2回以内	○	○	
炭酸水素塩剤	カリグリーン	800~1,000	収穫前日まで	—		○	野菜類登録
	ハーモメイト水溶剤	800~1,000	収穫前日まで	—		○	野菜類登録
天然物+無機銅	ジーファイン水和剤	750~1,000	収穫前日まで	—		○	野菜類登録
抗生物質	ポリオキシシンAL乳剤	1,000	収穫7日まで	5回以内		○	
有機銅剤	サンヨール	500~1,000	収穫前日まで	6回以内	○		
アニリノピリミジン	フルピカフロアブル	2,000~3,000	収穫前日まで	3回以内	○		
グアニジン系+ アニリノピリミジン	ダイマジン	2,000	収穫前日まで	2回以内	○		
無機硫黄	イオウフロアブル	500~1,000	—	—	○		野菜類登録
微生物剤	ボトキラー水和剤	1,000	発病前~発病初期	—	○		野菜類登録
	ボトピカ水和剤	2,000~4,000	発病前~発病初期	—	○		
	タフパール	2,000~4,000	発病前~発病初期	—	○		野菜類登録
	バイオトラスト水和剤	1,000~2,000	育苗期~収穫前日まで	—	○		

注) 詳細については平成21年度農業使用の手引き(野菜編)P163~165, P171~172を参照する。  
使用の際は、農林水産消費安全技術センターホームページ(農業登録情報検索システム)で確認する。